

科目名	環境会計学 Environmental Accounting						
科目担当者	森田 英二 MORITA Eiji						
単位数	2	配当年次	3年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>まずは環境問題の現状を把握し、それに対応して構築された環境経営の意義を解説する。環境会計は環境経営の会計的手法であり、企業の環境問題に関する取り組みを貨幣的、物量的に評価していくものである。また近年、企業は環境問題への対応だけでなく、CSR (Corporate Social Responsibility; 企業の社会的責任) として、経済、社会、環境の各分野から企業経営のあり方が問われている。このような CSR の概念や経済的手法である環境税といった新しい論点を加えることで、環境経営と環境会計をより深く考察していく。</p>						
授業の到達目標	<p>講義を通して以下の目標を達成する。</p> <p>①環境問題の実態を把握することで、環境経営の意義を理解する。 ②環境会計の学習を通して、会計学の応用力を身に付ける。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス/環境問題					
	2	環境経営と環境会計					
	3	環境管理会計					
	4	マテリアルフローコスト会計					
	5	ライフサイクルアセスメント					
	6	環境影響の統合化手法					
	7	ライフサイクルコストイング					
	8	環境効率とファクタ					
	9	環境情報開示と環境報告書					
	10	外部環境会計					
	11	財務会計と環境問題					
	12	資本市場と環境問題					
	13	環境経営から CSR 経営へ					
	14	環境税					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	毎回、テキストの学習範囲を熟読し、必要に応じて商業簿記と工業簿記の復習をする (毎週 2 時間程度)。						
授業外学修 (事後学修)	毎回、学習した範囲を見直して、疑問点は調べておくこと (毎週 2 時間程度)。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	定期試験 小テスト				60% 40%		①、② ①、②
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	國部克彦・伊坪徳宏・水口剛『環境経営・会計 (第 2 版)』有斐閣						
参考文献	なし						
その他	<p><望ましい受講生> 会計学の基礎知識は習得していること。環境問題にも関心があることが望ましい。 <あらかじめ受講してほしい科目> 「簿記論 I・II」「会計学 I・II」「原価計算論 I・II」「財務諸表論 A・B」「管理会計論 A・B」 <併行して受講してほしい科目> 「会計監査論 A・B」「エコビジネス」</p>						